

2027年3月期 第1四半期 決算ハイライト

ティアック株式会社
<https://www.teac.co.jp/jp/>
証券コード：6803

2026年8月7日

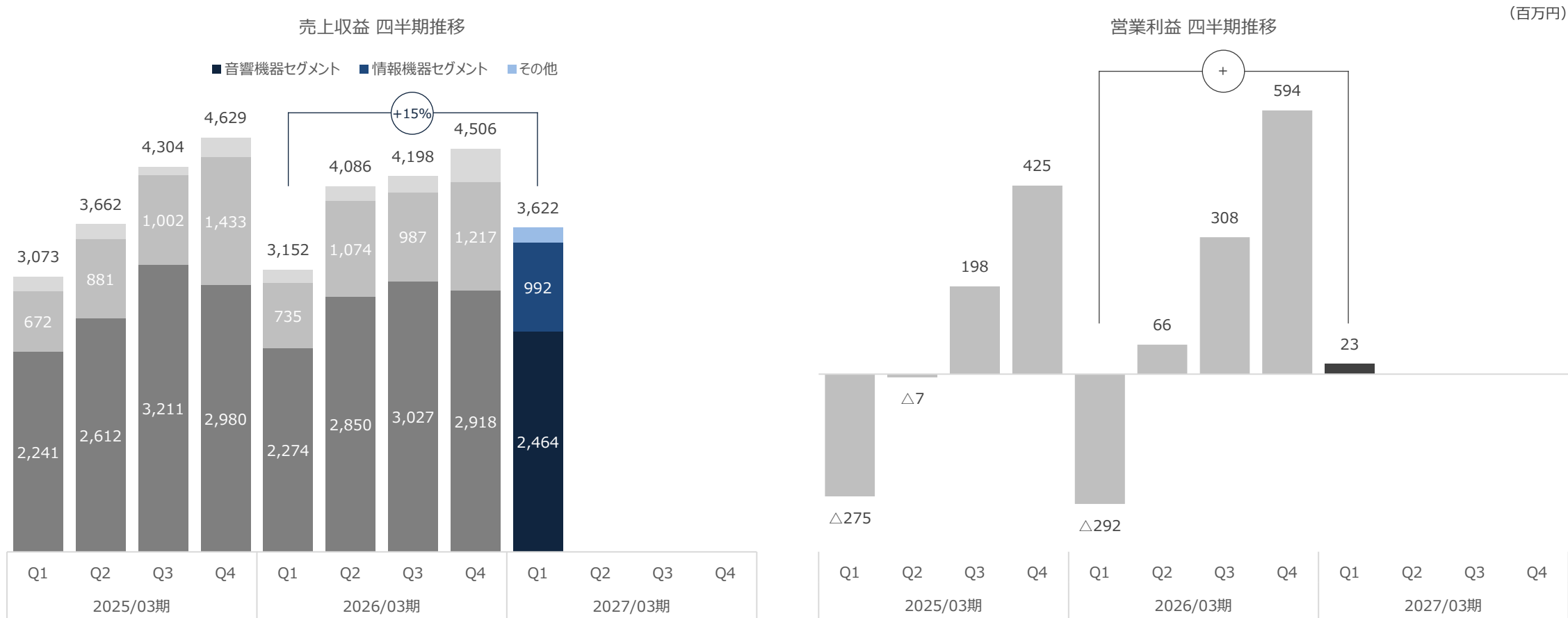
■ 2027/03期 第1四半期は前年同期比増収、営業利益は黒字転換。税引前利益・四半期利益は赤字縮小

	2026/03期 Q1	2027/03期 Q1	前年同期比	(百万円)
売上収益	3,152	3,622	+ 469 (+ 14.9%)	・ 音響機器セグメント・情報機器セグメントともに伸長し前年同期比増収
営業利益（△損失）	△ 292	23	+ 315 (-)	・ 増収に加え売上総利益率の改善と前期に実施した構造改革の効果発現により黒字転換
営業利益率（%）	△ 9.3%	0.6%	+ 9.9ppt	
税引前利益（△損失）	△ 280	△ 17	+ 263 (-)	・ 赤字縮小
四半期利益（△損失）	△ 264	△ 29	+ 235 (-)	・ 赤字縮小
資本合計	3,164	4,069	+ 905 (+ 28.6%)	・ 前年同期比増
1株当たり親会社 所有者帰属持分	109.85円	141.29円	+ 31.44円 (+ 28.6%)	・ 前年同期比増
自己資本比率	29.6%	37.3%	+ 7.8ppt	・ 前年同期比増
営業キャッシュフロー	312	54	△ 258	・ 前年同期比減

※ 2027/03期より、事業の実態および今後の事業展開をより分かりやすく示すため、事業および関連する製品の呼称の一部を変更いたします。なお、当該変更は表示上の変更であり、業績および事業内容そのものに重要な変更はありません。
新旧呼称の読替えは15ページをご参照ください

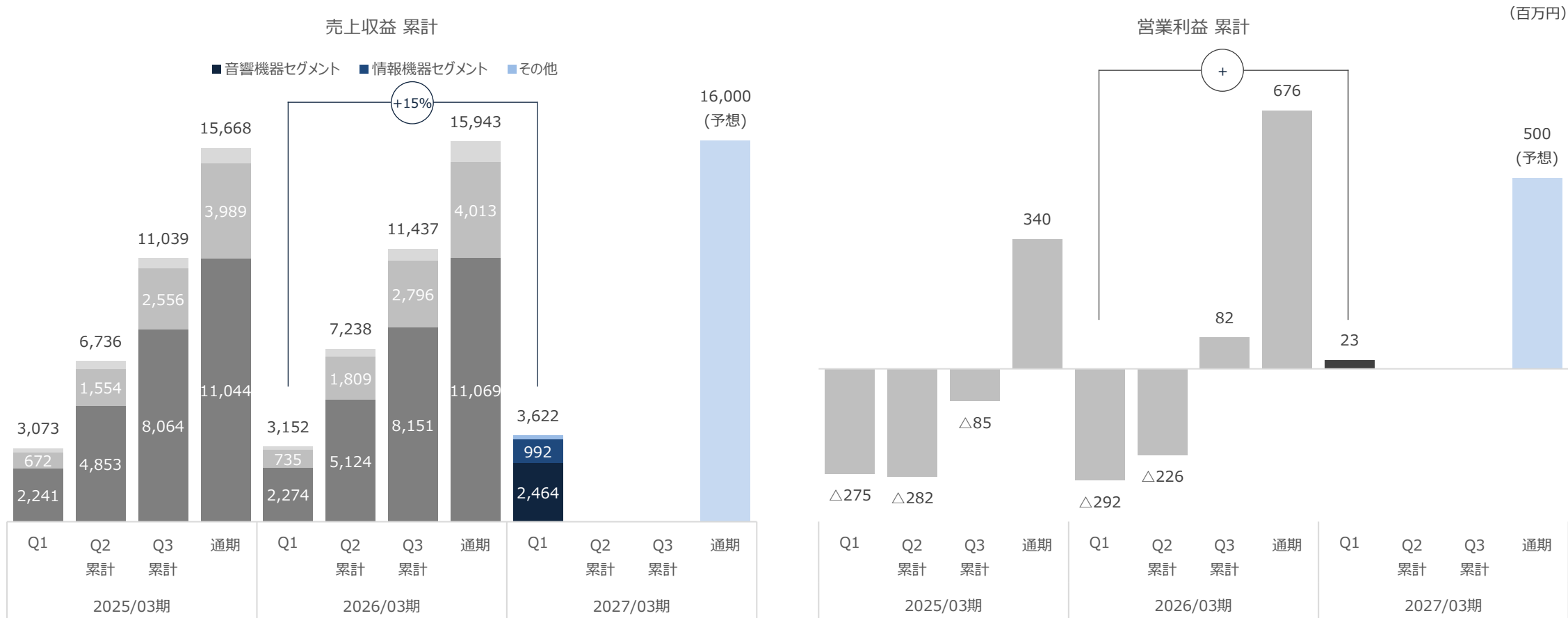
2027/03期 Q1 セグメント別業績

- Q1単独（4月-6月）売上収益は、音響機器セグメント・情報機器セグメントともに伸長し前年同期比15%の増収
- 営業利益は、増収に加え売上総利益率の改善と前期に実施した構造改革の効果発現により黒字転換

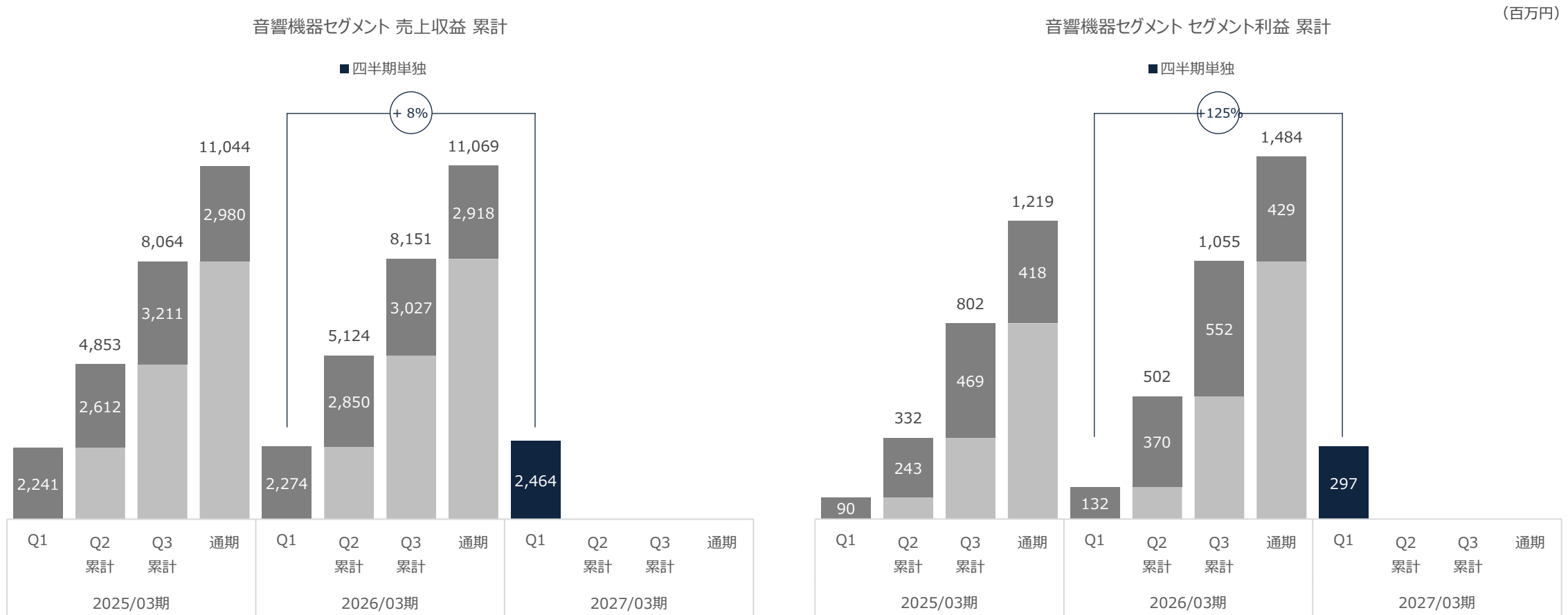


2027/03期 Q1 セグメント別業績

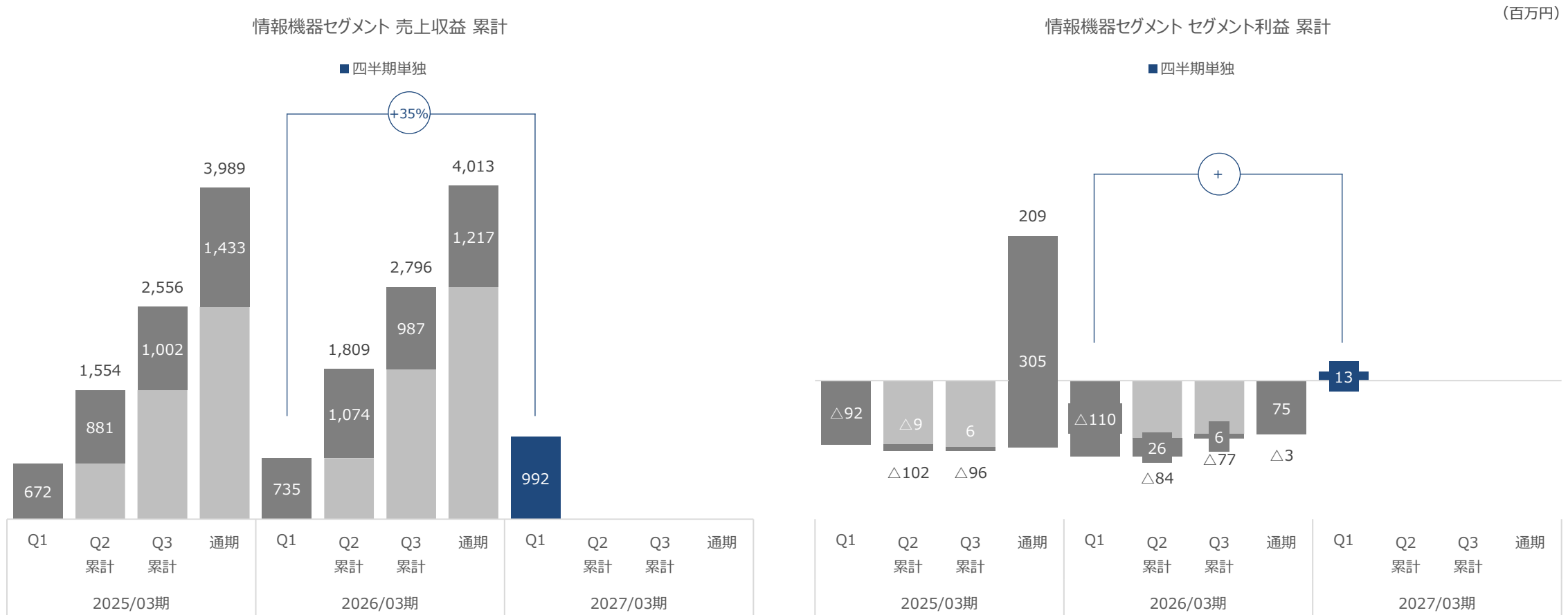
- 売上収益は、音響機器セグメント・情報機器セグメントともに伸長し前年同期比15%の増収
- 営業利益は、増収に加え売上総利益率の改善と前期に実施した構造改革の効果発現により黒字転換



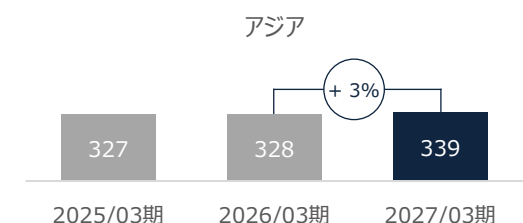
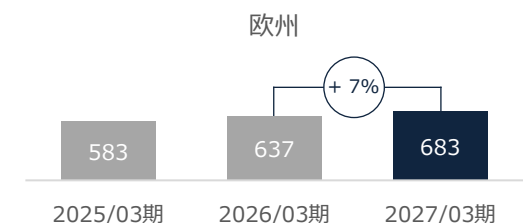
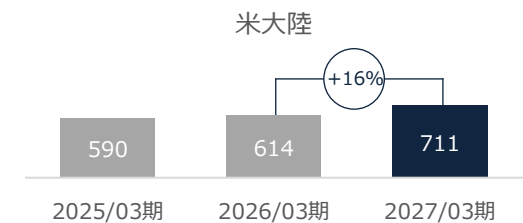
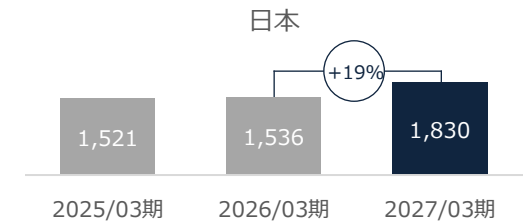
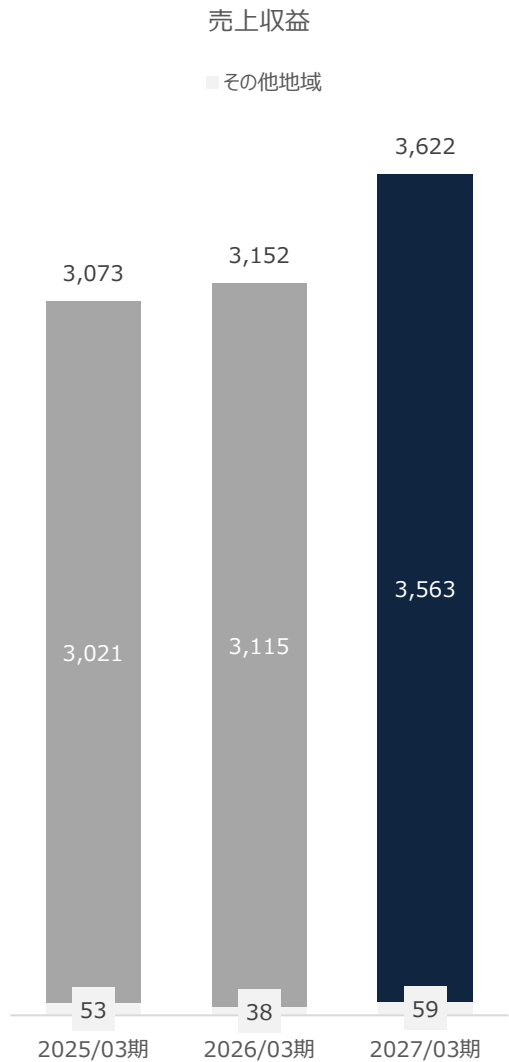
- プレミアムオーディオ機器事業（ESOTERIC、TEAC）は、ネットワークプレーヤーが好調維持も輸入スピーカーの供給が回復せず、減収
- 業務用音響機器事業（TASCAM）は、安定した設備機器需要により放送・設備向け製品が事業全体を牽引、クリエイター向け製品も高付加価値の中高価格帯製品が好調に推移し、増収



- 計測機器事業は、リース・レンタル業界向けデータレコーダー、半導体製造装置メーカー向けセンサー・アンプがいずれも好調に推移し、増収
- 映像システムソリューション事業のうち医用画像記録再生製品は、消化器内視鏡向けレコーダー新製品の上市遅れによる減収を手術画像レコーダーの好調がカバーし増収。機内エンターテインメント製品は、船舶業界向けストック収益モデルが寄与し増収



(百万円、+は前期比増収、△は同減収)

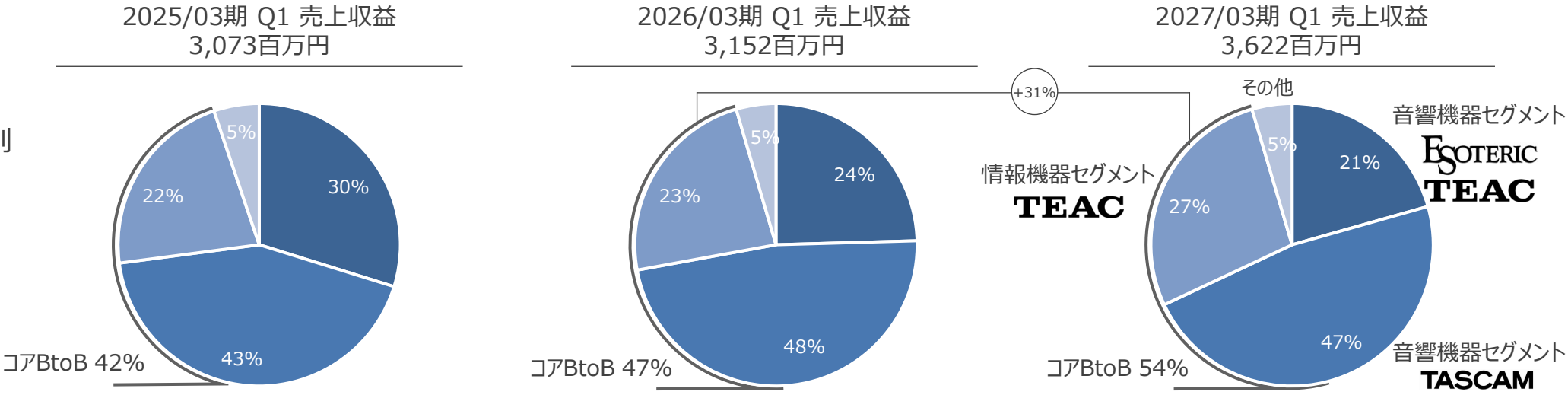


- 音響機器セグメント
 - + 業務用音響機器事業 (放送・設備向け製品)
 - △ プレミアムオーディオ機器事業、業務用音響機器事業 (クリエイター向け製品)
 - 情報機器セグメント
 - + 計測機器事業、ITソリューション事業
 - △ 映像システムソリューション事業
-
- 音響機器セグメント
 - + プレミアムオーディオ機器事業、業務用音響機器事業 (放送・設備向け製品)
 - △ 業務用音響機器事業 (クリエイター向け製品)
 - 情報機器セグメント
 - + 計測機器事業
 - △ 映像システムソリューション事業
-
- 音響機器セグメント
 - + 業務用音響機器事業 (放送・設備向け製品、クリエイター向け製品)
 - △ プレミアムオーディオ機器事業、
 - 情報機器セグメント
 - + 計測機器事業、映像システムソリューション事業
 - △
-
- 音響機器セグメント
 - + プレミアムオーディオ機器事業
 - △ 業務用音響機器事業 (放送・設備向け製品、クリエイター向け製品)
 - 情報機器セグメント
 - + 計測機器事業、映像システムソリューション事業
 - △

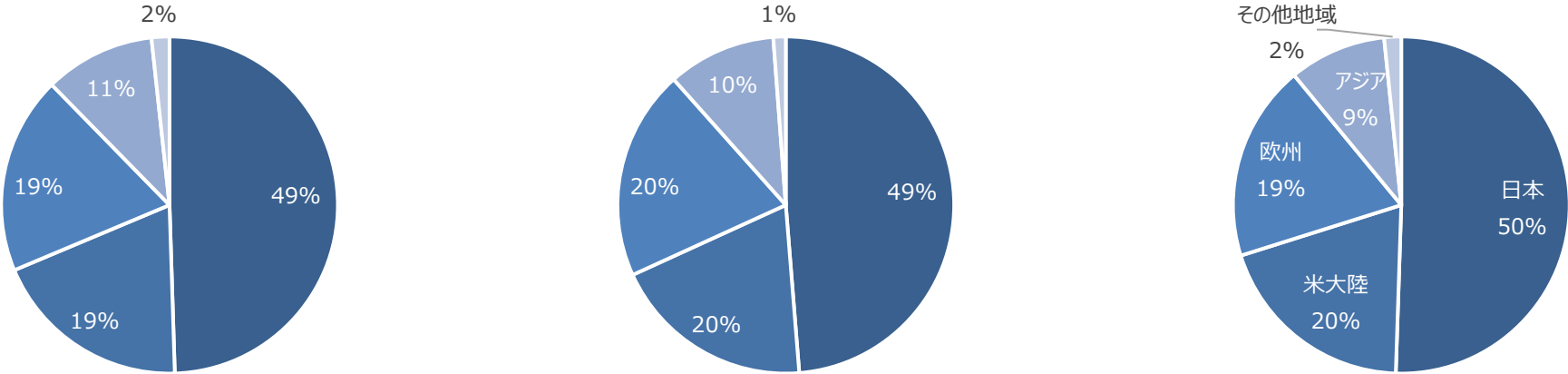
2027/03期 Q1 セグメント別・地域別構成比

- BtoB事業は前年同期比31%の大幅増収。他事業の好調に加え計測機器事業が復調したことが要因。BtoB比率は54%へ拡大
- 全地域にて増収も特に日本にて計測機器事業とITソリューション事業が伸長したことにより、日本の構成比は50%に到達

・ セグメント別

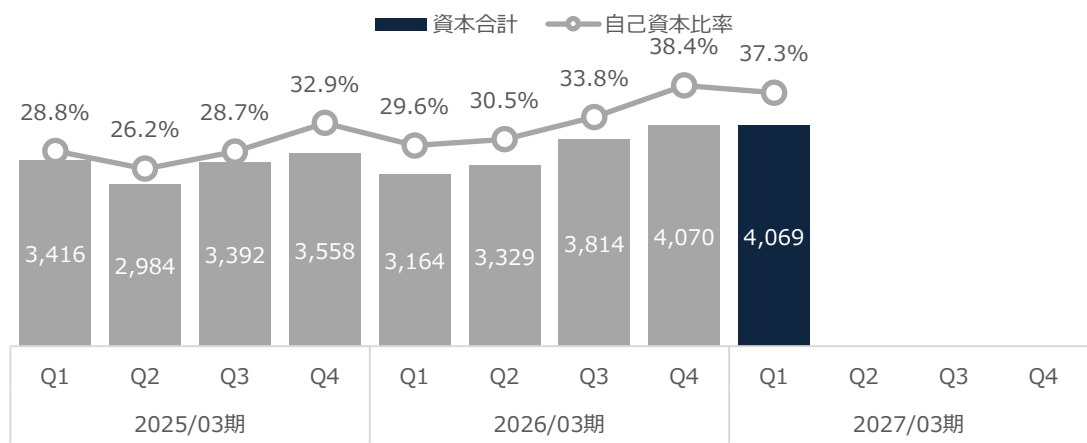


・ 地域別



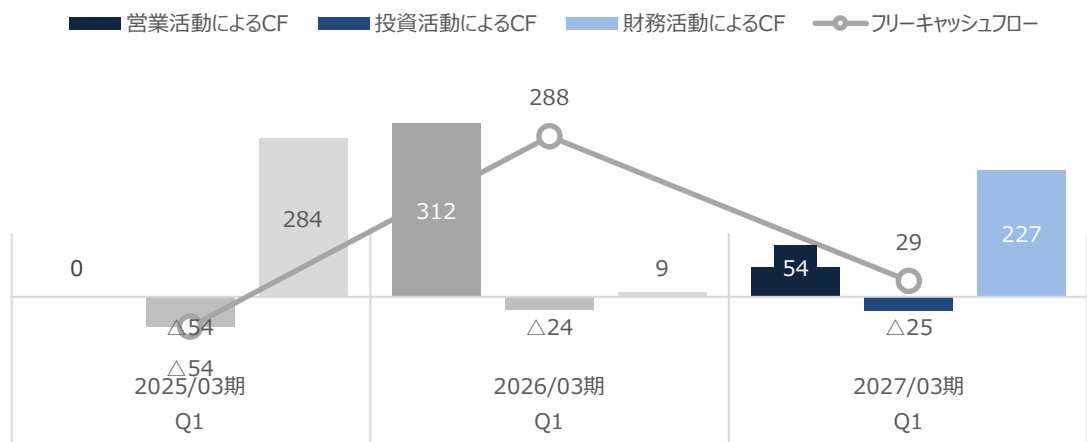
(百万円)

自己資本比率



- 資本合計：前年同期比+905百万円（+28.6%）増の4,069百万円
- 自己資本比率：前年同期比+7.8ppt増の37.3%

キャッシュフロー



- 営業キャッシュフロー：前年同期比△258百万円減の54百万円
- フリーキャッシュフロー：前年同期比△260百万円減の29百万円

- 新中期経営計画の初年度となる2027/03期は、資本効率を意識した事業ポートフォリオの最適化を進め、成長中核カテゴリーへの投資を重点的に実施する
- 新中期経営計画に関する詳細は「[中期経営計画策定に関するお知らせ](#)」（2026年5月13日発表）をご参照ください

	2026/03期	2027/03期 予想	前期比	
				(百万円)
売上収益	15,943	16,000	+ 57 (+ 0.4%)	• 為替相場、原材料価格の変動、各国の通商政策の動向等に加え、世界経済の先行き不透明感や地政学的リスクの高まりにより市場環境が急変する可能性を踏まえ、売上収益の成長率を抑制した計画
営業利益	676	500	△ 176 (△ 26.0%)	• 2026/03期は263百万円の個別開示項目（益）を計上
営業利益率（%）	4.2%	3.1%	△ 1.1ppt	
税引前利益	612	350	△ 262 (△ 42.8%)	• 減益計画
親会社の所有者に帰属する 当期利益（損失）	578	300	△ 278 (△ 48.1%)	• 減益計画
資本合計	4,070	-	-	
1株当たり親会社 所有者帰属持分	141.32円	-	-	
ROE*	15.2%	-	-	
自己資本比率	38.4%	-	-	
営業キャッシュフロー	1,610	-	-	

* 個別開示項目を除いたROEは8.2%

■ 音響機器セグメント プレミアムオーディオ機器事業

- TEAC・ESOTERIC、両ブランドを国内外の大規模イベントへ出展

国内：OTOTEN（2026年6月19日～21日）

TEACブランド製品を中心に、出展、『Reference700/500』とKlipschスピーカーを使用したシステムに加え、ヘッドホン試聴ブースを設置、FOCAL、HIFIMANなどのハイエンドヘッドホンによる試聴を楽しんでいただきました。同時にティアックストア限定販売のレコードプレーヤー・カセットデッキなどの展示・デモも人気を集めました。

TEACルームでは、ジャズおよびクラシックといった一般的な楽曲に加え、若い世代に絶大な支持を得ている「アニソン」を効果的に取り入れたデモを実施、多くのファンを魅了しました。ESOTERICルームでは、『N-05XE』とAvantgarde社『OPUS1』を使ったミニマルハイエンドスタイルを提案し、ロックやポップスを強く意識したデモを実施、シンプルで手の届くハイエンドオーディオを来場者にアピールしました。

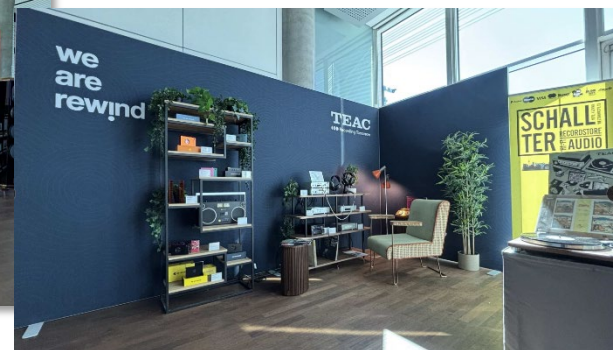


海外：HIGH END Vienna（2026年6月6日～9日）

過去40年間ドイツ・ミュンヘンで開催され、今年からオーストリア・ウィーン「Austria Center Vienna」での開催となったヨーロッパ最大のオーディオショウにて、当社の現地代理店がメイン近隣会場の「Vienna Sound Fest」へ出展。

TEACは『Reference700/500』シリーズによるシステムに加え、ヘッドホン試聴システムも展示。

日本から派遣したスタッフによるデモンストレーションが行われ、世界各国から集まる多くのオーディオファイルたちを魅了しました。



■ 音響機器セグメント 業務用音響機器事業

- ・ TASCAM製メディアプレーヤー／レコーダー4機種がQ-SYS™との連携に対応

TASCAMはQSC社とパートナーシップを締結し、メディアプレーヤー『MP-800U』・『CD-400U』およびネットワーク対応プレーヤー／レコーダー『SS-CDR250N』・『SS-R250N』向けに、フルスタックAVプラットフォーム「Q-SYS™」対応の認証済みコントロールプラグインの提供を開始しました。これにより、Q-SYS環境から再生・録音制御やファイル選択などをネットワーク経由で一元管理することが可能となり、企業・教育・医療・公共施設など幅広い市場におけるシステム統合性と運用効率の向上に貢献します。業界標準プラットフォームとの連携強化を通じ、ソリューション提案力のさらなる向上を図ります。

また、北米最大級のProAV展示会「InfoComm」においてQ-SYSブースで対応製品を展示し、高い注目を集めました。



- ・ 欧州放送市場で『TASCAM Sonicview』シリーズ採用が拡大、ドイツ公共放送局へ初導入

ドイツの公共放送局Bayerischer Rundfunk（BR）より、デジタルミキシングコンソール『Sonicview 16』・『Sonicview 24』および関連機器を受注しました。『TASCAM Sonicview』シリーズとしてドイツ公共放送局への初採用となり、放送・設備市場におけるブランド認知向上と今後の販売拡大が期待されます。

『TASCAM Sonicview』シリーズはIP伝送規格SMPTE ST 2110への対応など放送現場で求められる先進機能を備えており、日本国内だけでなく欧州でも放送・設備市場での採用が進展しています。今回の導入は、TASCAMが注力する放送・設備向け製品での事業拡大を象徴する成果となりました。



■ 情報機器セグメント 映像システムソリューション事業 医用画像記録再生製品

- 『MV-5』正式リリース × Rocoto社製品の国内取扱開始

当社は、内視鏡イメージレコーダー『MV-5』を正式リリースいたしました。MVシリーズで培ってきた消化器内視鏡との連携機能を継承しつつ、内蔵HDD暗号化、ユーザー制限、USB使用制限などのセキュリティ機能を強化した新製品です。5インチタッチスクリーンや外部タッチパネル、H.265/MP4記録、『MV-5D』によるDICOM連携などにより、診療画像の記録・管理・活用を支援します。

併せてRocoto社『MD62 / MD11』の国内正規取扱いを開始し、4Kワイヤレス映像伝送と1~2ms未満の超低遅延、NLOS/AFS/DFSによる安定通信を組み合わせ、手術室・検査室のケーブルレス化と医療映像ワークフロー改善を提案領域に加えます。

- モダンホスピタルショー2026に出展

当社は、2026年7月8日~10日東京ビッグサイトにて開催された国際モダンホスピタルショー2026に出展いたしました。ティアックブースでは、『MV-5』・『UR-NEXT4K』・『UR-4MD-SE』・『SURGEONE v2』などの展示を通じ、医療現場向けの映像記録・管理ソリューションを一体的に訴求いたしました。

新製品『MV-5』にRocoto社製品を加えた提案を通じ、内視鏡・手術室・検査室の映像活用ニーズに応え、病院・医療機器メーカー・映像システムインテグレーターとの接点を広げると共に、製品リリースと展示会発信を連動させ、認知向上と新規案件創出に繋ぐ活動を行いました。



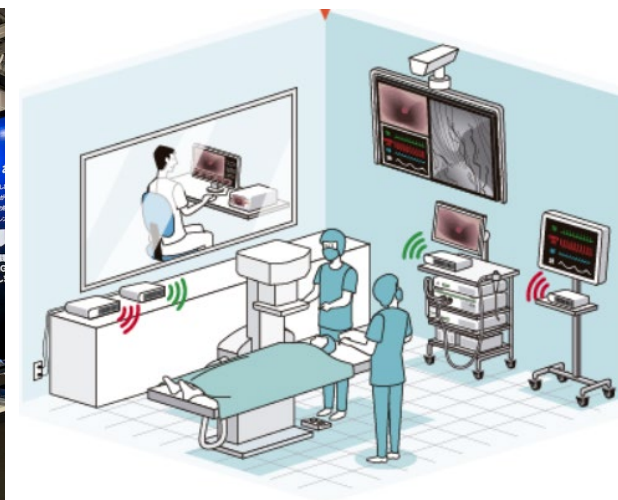
『MV-5』



Rocoto社『MD62 / MD11』



展示ブース



『MD62 / MD11』によるケーブルレス化提案

財務データシート（IFRS）

		2025/03期					2026/03期					2027/03期					
		Q1	Q2	Q3	Q4		Q1	Q2	Q3	Q4		Q1	Q2	Q3	Q4		
貸借対照表	流動資産	9,302	8,914	9,414	8,568		8,515	8,691	9,053	8,447		8,720					
	現金及び現金同等物	1,487	1,347	1,291	1,552		1,854	1,464	1,701	2,173		2,442					
	営業債権及びその他の債権	2,480	2,433	2,903	3,108		2,334	2,855	2,825	2,747		2,281					
	棚卸資産	5,082	4,925	4,957	3,661		4,134	4,157	4,243	3,275		3,798					
	その他の流動資産	254	209	263	248		193	215	285	252		199					
	非流動資産	2,571	2,490	2,416	2,246		2,181	2,223	2,242	2,146		2,176					
	資産合計	11,874	11,404	11,831	10,815		10,696	10,914	11,295	10,593		10,895					
	流動負債	6,051	6,265	6,482	5,557		6,010	6,248	6,259	5,526		5,958					
	社債及び借入金	2,882	2,985	3,300	2,565		2,823	3,073	3,155	2,567		3,018					
	リース負債	389	380	386	373		349	346	328	304		355					
	営業債務及びその他の債務	1,476	1,412	1,311	1,024		1,425	1,336	1,331	912		1,107					
	その他の流動負債	1,304	1,488	1,485	1,596		1,413	1,493	1,444	1,744		1,478					
	非流動負債	2,406	2,155	1,957	1,700		1,522	1,337	1,222	997		868					
	社債及び借入金	1,142	1,007	926	797		714	579	497	409		324					
	リース負債	710	634	555	477		423	402	406	295		270					
	長期未払金	472	428	386	336		303	270	237	203		177					
	その他の非流動負債	82	86	90	91		82	85	82	90		97					
	負債合計	8,458	8,421	8,439	7,257		7,532	7,585	7,481	6,523		6,826					
	資本合計	3,416	2,984	3,392	3,558		3,164	3,329	3,814	4,070		4,069					
	親会社の所有者に帰属する持分合計	3,416	2,984	3,392	3,558		3,164	3,329	3,814	4,070		4,069					
	非支配持分	0	0	0	0		0	0	0	0		0					
	負債及び資本合計	11,874	11,404	11,831	10,815		10,696	10,914	11,295	10,593		10,895					
	親会社所有者帰属持分比率	28.8%	26.2%	28.7%	32.9%		29.6%	30.5%	33.8%	38.4%		37.3%					
損益計算書	売上収益	3,073	3,662	4,304	4,629	15,668	3,152	4,086	4,198	4,506	15,943	3,622				3,622	
	音響機器セグメント	2,241	2,612	3,211	2,980	11,044	2,274	2,850	3,027	2,918	11,069	2,464				2,464	
	情報機器セグメント	672	881	1,002	1,433	3,989	735	1,074	987	1,217	4,013	992				992	
	その他	160	169	90	216	635	144	162	184	371	861	166				166	
	セグメント利益	13	251	455	731	1,450	11	385	555	551	1,502	314				314	
	音響機器セグメント	90	243	469	418	1,219	132	370	552	429	1,484	297				297	
	情報機器セグメント	△ 92	△ 9	6	305	209	△ 110	26	6	75	△ 3	13				13	
	その他	16	17	△ 20	8	21	△ 11	△ 12	△ 4	47	21	5				5	
	個別開示項目前営業利益	△ 275	△ 7	198	425	340	△ 292	124	308	273	413	23				23	
	個別開示項目	0	0	0	0	0	0	△ 58	0	321	263	0				0	
	営業利益	△ 275	△ 7	198	425	340	△ 292	66	308	594	676	23				23	
	税引前利益	△ 398	37	18	402	59	△ 280	39	309	544	612	△ 17				△ 17	
	親会社の所有者に帰属する当期利益	△ 393	49	13	412	81	△ 264	62	298	482	578	△ 29				△ 29	
	キャッシュフロー	営業活動によるキャッシュフロー	0	104	△ 226	1,300	1,178	312	△ 347	363	1,281	1,610	54				54
		投資活動によるキャッシュフロー	△ 54	△ 31	△ 20	△ 9	△ 115	△ 24	△ 59	△ 42	△ 25	△ 150	△ 25				△ 25
財務活動によるキャッシュフロー		284	△ 134	124	△ 980	△ 706	9	18	△ 121	△ 790	△ 883	227				227	
フリーキャッシュフロー		△ 54	73	△ 247	1,291	1,064	288	△ 405	321	1,256	1,460	29				29	

呼称変更

旧呼称（～2026/03期）	新呼称（2027/03期～）
音響機器事業	音響機器セグメント
情報機器事業	情報機器セグメント
プレミアムオーディオ機器	プレミアムオーディオ機器事業
プレミアムオーディオ機器 ESOTERICブランド	プレミアムオーディオ機器事業 ハイエンドオーディオ製品（ESOTERICブランド）
プレミアムオーディオ機器 TEACブランド	プレミアムオーディオ機器事業 プレミアムオーディオ製品（TEACブランド）
音楽制作・業務用オーディオ機器（TASCAMブランド）	業務用音響機器事業（TASCAMブランド）
TASCAMブランドBtoB事業	業務用音響機器事業（TASCAMブランド） 放送・設備向け製品
TASCAMブランドBtoC事業	業務用音響機器事業（TASCAMブランド） クリエイター向け製品
計測機器 データレコーダー	計測機器事業 データレコーダー製品
計測機器 センサーおよびデジタル指示計	計測機器事業 センサー・アンプ製品
医用画像記録再生機器	映像システムソリューション事業 医用画像記録再生製品
機内エンターテインメント機器	映像システムソリューション事業 機内エンターテインメント製品
ソリューションビジネス	ITソリューション事業

この資料に記載されている記述のうち、将来見通しに関する記述は、当社の現時点での入手可能な情報に基づいているため、既知または未知のリスクおよびその他の不確定要因が内在しており、実際の業績はこれらの業績見通しと大幅に異なる可能性があります。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、主要市場（日本、北米、欧州、アジアなど）の経済状況・需要動向、同市場における通商政策他の貿易規制等各種規制、ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、部品・原材料の供給、物流網の安定性、急激な技術変化、などがありますが、業績に影響を与える要素としてはこれらに限るものではありません。